

2027.1.9(土) - 3.14(日)

〈開館時間〉 9:30~17:00

〈休館日〉 月曜日(ただし1月11日は開館、翌12日休館)

〈観覧料〉 一般520円(410円)/高校・大学生360円(290円)/小・中学生260円(200円)

※()内は20人以上の団体割引料金。小・中・高校生は、土・日・祝日は無料。

高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。

〈会場〉 1階 特別展示室 3階 書道美術常設展示室

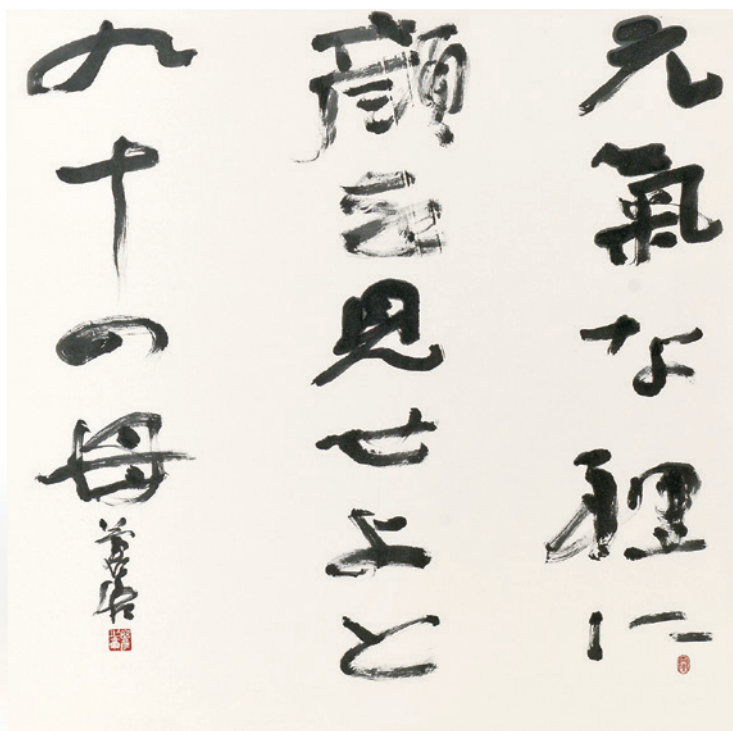
〈主催〉 徳島県立文学書道館

〈後援〉 徳島県教育委員会 徳島新聞社 NHK徳島放送局 四国放送
ケーブルテレビ徳島 FM 徳島

劉

蒼居

Ryu Sokyo



「元氣な裡に顔を見せよと九十の母」

— 心を書に刻む

徳島県池田町の朝 (撮影: 宮武健仁)

言の葉ミュージアム
徳島県立文学書道館

〒770-0807 徳島市中前川町2丁目22-1
ホームページ <https://www.bungakushodo.jp>

TEL 088-625-7485 FAX 088-625-7540
Eメール kotonoha@bungakushodo.jp



徳島県池田町出身の母を持つ書家・劉蒼居は、師・木村知石の書法を受け継ぎ、中国の米芾や王鐸を基調とした漢字や調和体作品で、独自の書表現を確立しました。日本芸術院賞を受賞した2006年、65歳で急逝。没後20年を迎えた今も徳島に多くの弟子が残っています。

今回の特別展では、日本芸術院賞受賞作はもちろん、成田山書道美術館や香川県立ミュージアム、村上三島記念館に寄贈された作品も展示します。

「書美の追求は線であり、心の追求である」と考えていた劉蒼居の、心技一体となった書の世界を、ぜひお楽しみください。



りゅう そうきょ
劉 蒼居 (1941-2006年)

香川県観音寺市生まれ。本名は振角(ふりかど)昭彦。24歳の時、書に専心するため現・日本製鉄を退社。振角家の養子となり、木村知石に師事。その年の日展に初出品、初入選を果たす。

1981、82年と連続して日展特選。86年に書道研究玄心会初代理事長に就任。2000年、日展会員賞。03年、日展内閣総理大臣賞。06年「袁枚詩」で日本芸術院賞。四国大学客員教授。著書に『プロに学ぶ書のテクニック 疎密』『古典の新技法 明人書翰Ⅰ』など。



「袁枚詩」 日本芸術院賞受賞作（日本芸術院所蔵）

関連イベント

■ トーク「劉蒼居の人と書」

講師 池永碧濤（書家・書道研究 玄心会理事長）

日時 1月11日(月・祝)14:00～15:30 *参加無料

会場 1階ギャラリー 定員 180人(申込多数の場合は抽選)

※ トークの申込方法

はがき、FAX、メールのいずれかに「劉蒼居展トーク」と明記の上、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入し、12月25日までに当館までお申し込みください。当館受付でも申し込みます。

■ 展示解説

講師 佐藤美和（当館専門職員）

日時 ①1月23日(土) ②2月14日(日) ③3月6日(土)

各11:00～11:30 *申込不要 観覧券必要

〈交通アクセス(JR徳島駅から)〉

徒歩 約15分

JR徳島駅西側のポッポ街を抜けて右折 踏切と助任川を越え、3つ目の信号交差点を右折して約300m

バス 約10分

[徳島市営バス]7番乗り場「川内循環線(右回り)」に乗車 「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分

[徳島バス]2番乗り場「前川経由」に乗車 「吉野本町2丁目」で下車し徒歩で約5分

タクシー・自動車 約5分

国道192号線、藍場町交差点を北進 助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m

〈県外よりお越しの場合〉

◆ 徳島阿波おどり空港からJR徳島駅まで リムジンバスで約25分

◆ 徳島ICより車で約10分

〈駐車場〉 北側・南側(62台・大型バス2台)

